

令和元年度 第19回  
柏原市子ども・子育て会議  
議事録

日時：令和2年2月13日（木）10時～11時15分

場所：柏原市立健康福祉センター オアシス

参加者：小松 孝至 (大阪教育大学教育学部准教授)  
住本 和弥 (柏原市労働組合協議会代表)  
谷向 みつえ (関西福祉科学大学社会福祉学部教授)  
西 育代 (主任児童委員)  
藤井 謙昌 (柏原市民間保育園協議会代表 みずほ保育園園長)  
藤宇 敦子 (PTA協議会幼・小・中交流部会長)  
二葉 義弘 (柏原市市民代表)

(事務局)

北西課長 (健康福祉部こども政策課)  
村井参事 (健康福祉部こども政策課)  
石橋課長 (健康福祉部こども育成課)  
巽 課長補佐 (健康福祉部こども育成課)  
兼嶋係長 (健康福祉部こども政策課子育て支援係)  
松本課長 (健康福祉部健康福祉課)  
高野主査 (健康福祉部健康福祉課)

(欠席)

柴田 裕紀子 (柏原市放課後児童会連絡会代表)  
田中 昌之 (柏原市私立幼稚園代表第二白鳩幼稚園園長)  
西村 龍夫 (柏原市医師会代表)

議事次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
  - (1) 公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画についてご報告
  - (2) 柏原市こども未来プラン (第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画) (案) へのパブリックコメント実施結果
  - (3) 柏原市こども未来プラン (第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画) (案) の成案について
  - (4) その他
4. 閉会

【配布資料】

- 資料1：公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画【第1期修正】  
資料2：公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画【第1期修正】(その2) (案)  
資料3：柏原市こども未来プラン(第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画)(案)へのパブリックコメント実施結果  
資料4：第2期計画(案)変更分抜粋

1. 開会  
(会議成立報告)
2. 会長あいさつ  
谷向会長
3. 議事

**【谷向会長】**

それでは案件に入っていきたいと思います。事務局のほうからよろしく願いいたします。

**【事務局】**

(配布資料の確認)

資料1：公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画【第1期修正】

資料2：公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画【第1期修正】(その2)(案)

資料3：柏原市こども未来プラン(第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画)(案)へのパブリックコメント実施結果

資料4：第2期計画(案)変更分抜粋 20200213

(1) 公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画についてご報告

公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画第1期修正についてのパブリックコメントを12月2日から12月23日まで実施しました。特に意見がなかったため、資料1の通り令和元年12月付で成案として市のウェブサイト等で公表します。

資料1「公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画【第1期修正】」では、国分地区のうち、玉手幼稚園と円明保育所を統合して認定こども園とするという方向性をお示しました。

第1期修正計画策定と同時期に国分幼稚園の園舎耐震診断の速報で、耐震補強が必要と判定されました。期間として約10か月、費用として約2億円が必要と判定されました。50年を経過し老朽化した建物に補強を施す費用対効果や工事期間の子ども達の保育場所等を総合的に検討した結果、国分幼稚園の耐震補強はせず、国分幼稚園と国分保育所を統合して認定こども園とすることにしました。

その計画案が資料2になります。第1期の(仮称)かしわら認定こども園、(仮称)たまた認定こども園と同時期(令和3年4月)の開園を目指してこども園化すること、12月に策定した第1期修正計画で公立幼保の全体の方向性を既に示しているため、今回(資料2)は、国分地区の国分幼稚園と国分保育所に絞った内容の計画案として作成しています。

(仮称)こくぶ認定こども園は、(仮称)たまた認定こども園と同様に既存の園舎を活用した認定こども園化を想定し、環境改善のための簡易な修繕等の後、令和3年4月から認定こども園とすることを予定しています。

資料2「公立幼稚園及び公立保育所再編整備実施計画【第1期修正】(その2)(案)」では、令和2年2月25日から3月19日の期間に改めてパブリックコメントを実施して意見を募集したいと考えています。パブリックコメントでいただいた意見等を踏まえて成案の後に市のウェブサイト等で公表する予定です。

案件1については以上です。

**【谷向会長】**

今までのところで、何かご質問はないでしょうか。

**【西委員】**

急に国分幼稚園のことを聞いたのですが、今まで耐震のことについては「幼稚園は1階なので特に力を入れていない」と聞いたことがあります。堅下幼稚園も年数は大体同じくらいだと思います。堅下幼稚園に関して今後の耐震補修の予定はどうなっていますか。

**【事務局】**

昨年に小中学校は全て耐震補修が終わりました。次は幼稚園という流れの中で、今回園児数において最後まで残る可能性の高い国分から対応していく方針としました。平屋で年数が経っているということで、耐震

診断を行い安心して通っていただく趣旨で耐震補強をして対応する予定でしたが、予想以上に期間も費用もかかる判定結果になりました。今後については、順次考えているのですが、堅下の場合は今年4月の入園者数が10名程度であり、3歳児の人数を見ていると今後は減っていくことになると思われるので、耐震診断をして不適という判定が出たら他に移っていただく流れになると思います。今は、来年度耐震断をする計画はありません。どこかに統合という流れの方が早いのではないかと思います。

#### 【西委員】

堅下に関してはそういうお話が進んでいなかったので、耐震が一番必要なことだと思うのですが、それもまだ幼稚園に関してはあまり必要ないということを知っていたので、耐震が理由でこうなったということであれば堅下も同じ条件だと思うので、いくら園児が少ないといえ子どもがいる以上は関係してくると思います。

以前に他の市内の幼稚園・保育所を回ったのですが、国分保育園は立地条件もよく、子どもが入る広さもあり、園児の数もそこそこいましたので、そんな中に入っていくとどうなるのかと心配しています。また、ハローKIDSがなくなるということですが、国分ではハローKIDSは必要ないのですか。国分地区にはハローKIDS、堅下地区にはスキップKIDSと2つに分かれていてよいところがあったと思います。これをなくしてスキップKIDSに吸収するというのはどうなのでしょう。また別に、国分のどこかに開所される予定はないのですか。

#### 【事務局】

地区で言うと、子育て支援センターとしては、国分地区には「ハーモニー」があります。旭丘まふね保育園さんが市の委託によって事業をしていただいております、柏原地区と2か所できている状況です。

#### 【西委員】

そこに持っていくということはないのですね。

#### 【事務局】

全てを持っていくということではありませんが、ハローKIDSでやっていた分もハーモニーに担っていただきながら、スキップKIDSを拠点として地域子育て支援センターとしてやっていくという形になるかと思っています。

#### 【西委員】

主任児童委員もハローKIDSに関わっていて、いろいろお話を聞いています。スキップKIDS1つになってしまうとどんな感じになるのか。今まで1つだったものが2つに分かれてよくなったという話をしています。1つになって、ハローKIDSでやっていたことが全てハーモニーでやっていただけるのかが気になります。

#### 【事務局】

子育て支援の行事はスキップKIDSを中心に、柏原市の子育て事業のバランスを見ていくということですが、あと、地域にある保育所や、今後は認定こども園3か所が拠点になって、地域の方の子育て支援ができればということで試行錯誤中です。一極集中型ではなく、通いやすい場所にいろいろな機能があるのが理想だと思います。

#### 【西委員】

移動手段がなくてバスでこちらに来ていた人もあります。遠くまで行くのではなく、地域で母親がつながるのが大事です。地区が違えば来て結局子どもが大きくなると疎遠になってしまいます。けれども柏原市が小学校中学校とあとのことをずっと見守っていくということをうち出しているのであれば、なくなるように書かれていたのは気になりました。そこは維持していただきたい。

また、堅下幼稚園の近くの方々に聞くと、人数が少なくなって3歳未満の子どもを持つ母親はすごく迷っている。今は人数が少なくなってきて、休園・廃園の流れになるだろうと思われるかもしれませんが、そうならない様に幼稚園を残そうと頑張っている人もいます。「ある幼稚園では耐震不適で存続できなくなりました。ある幼稚園では人数が減ってきて存続できない」という考えではなく、現実に子どもを育てている母親の気持ちやニーズを考えていただきたい。

今回の決定で、次は休園とか廃園というのは決まっているのですか。

**【事務局】**

令和2年度の入所申込みは10人です。教育委員会会議にはかった結果、1年様子を見ることになりました。今年の入園者は途中で移ることはなく、堅下幼稚園で卒園していただくという話をしています。また令和2年の秋に令和3年度の募集がありますが、人数によっては玉手幼稚園と同じ進め方になるかと思います。

**【西委員】**

その時は認定こども園も考えつつ、もし人数が減ってきたら堅下幼稚園と堅下保育所を1つにする考えもあるということですか。

**【事務局】**

(仮称) たまた認定こども園の場合、円明保育所に余裕があったのでそういう流れになりましたが、堅下保育所は園児が多いので堅下保育所との統合は今のところ難しいです。

**【西委員】**

堅下北幼稚園のように休園、廃園という形になりますか。

**【事務局】**

現在の状況で言うと(仮称)かしわら認定こども園が統合先になる可能性があります。新しく建つので、元々の柏原西幼稚園の園区の子のニーズがどのくらい出てくるかということによって、堅下地区の園区を変えて柏原西幼稚園と堅下幼稚園の両方の子どもが行けるような形にできるかどうか令和3年以降の申し込み状況を見ながら考えていかなければいけないと思います。

**【西委員】**

新しくできる(仮称)かしわら認定こども園に期待している母親の声を聞きます。今は無理して遠くに行っている保護者もいて、近くにできたらそこに入りたいという希望があるようです。

**【藤宇委員】**

現実的に幼稚園の運営として堅下、堅上が難しいのは分かるのですが、2～3年後の子どもの人数は分かりますか。堅下地区の認定こども園に通う予定の園児がどのくらいいるかは把握しているのですか。

**【事務局】**

子どもの人数は減っていますが、保育ニーズは上がってきています。令和元年の申し込みで少し減ったので、ピークが過ぎたとみています。保育所は区域がないので、地区ごとの人数を読みにくいのですが、幼稚園は地域の園児数を予測できます。ただ、保護者が就労していれば保育所に、共働きでなければ幼稚園に通うことが多いです。民間の幼稚園という選択もあってどれくらい来るのか読みにくいところがありますが、未就園を対象にしている「親と子のための教室」に通う子どもたちがそのまま上がってくるイメージを持っていますが、その子どもたちも堅下では10名前後であり、増えることはないと思います。

**【藤宇委員】**

市でも事前に2～3年先のことを把握している。共働きの保護者は近くに子どもを預けたい。立地条件が一番大事で、小学校や中学校のことを考えて親は転居することも視野に入れていると思います。市の保育施設がどうなるかということは、2～3年先のことを考えて動いてあげてほしい。堅下地区はそういう状況が身近に来ているので、急いで対策をうってほしいと思います。

**【小松副会長】**

保育士などスタッフと施設面のことでお聞きしたい。

(仮称)かしわら認定こども園は早くから準備を進めてこられました。(仮称)たまた認定こども園は、以前から子どもの人数が少ないということで準備を進めてきました。国分幼稚園は耐震診断したところ、危ないということで急遽ということになりました。柏原地区と国分地区では、先生方の準備の状況が相当違うのではありませんか。

ハード的にも、(仮称)かしわら認定こども園の方は新しく建てられて、(仮称)こくぶ認定こども園は今の保育所の建物を使うということで、これも保育の進め方に違いが出てくると思う。実際に国分保育所の

建物もほぼ50年経っており、床面積を見ると、幼稚園に比べるとこども一人当たりの広さが小さくなる。国分幼稚園は子どもの数に比べると園庭もかなり広くて環境的な物も大分違うような気がします。先生の準備にしてもそうした格差が出てくるのではないかと危惧していますが、その辺の対策はどのように考えておられますか。

**【事務局】**

まず、保育士、幼稚園教諭のスキルについて。元々は（仮称）かしわら認定こども園だけでしたが、認定こども園になるにあたり、幼稚園教諭と保育士が勉強会を開いて、今後認定こども園の環境をどうしていくかについて勉強してきました。今は、柏原市内の保育所も幼稚園も認定こども園も皆同じように保育の質を向上していくことを目的で研究会を開いています。今年度は民間保育園等にも研究会に参加していただき、全市的にスキルを上げていきたいということで実施しているので、園によって格差が出ることはありません。

建物については、見るからに古い施設もありますが、そこは工夫して使っていくしかないので、園の中の環境と周りの地域の環境を見ながらどんな保育ができるのかということは今後は考えていかなければいけないと思っています。園庭の大きさは、1日の流れでみんなが譲り合って使えるよう工夫することも課題です。大きさで言えば、（仮称）かしわら認定こども園の園庭も同じように工夫が必要です。

**【小松副会長】**

令和3年度4月スタートに間に合うように、先生方の準備は進んでいるということによろしいですか。

**【事務局】**

はい。

**【小松副会長】**

玉手幼稚園も国分幼稚園も、幼稚園のあった土地を何かの形で活かしていただく。同じような環境で子ども達を育てていけるように市として考えていただく必要があると思います。市内の園で格差が出ないようにしていただきたい。

**【西委員】**

先日国分東小学校が閉校しましたが、広いのにもったいないという話をしていました。地域で使えるものは使って、広いところで伸び伸びと子ども達を育てていくように考えていただきたい。堅下北幼稚園も草が生い茂っています。地域の見守りボランティアの人の憩いの場になっていますが、地域の真ん中にある土地が荒廃していく姿を見るのは寂しい。そこに通っていた子ども達の気持ちを考えることもあります。堅下北幼稚園もすごく広いです。国分東小学校も校舎を有効活用できればと思います。悪くなってしまってからメンテナンスして使うよりも、今の時点で継続して何かに使ってもらえたらいいのにといい声も聞きます。狭いところで、あるもので、ではなく、少しでも費用をかけずに先を見通した対策に力を入れてほしいと思います。

**【藤宇委員】**

地域にデビューする未就園児の保護者と子どもが一緒に集えるところがまさに国分幼稚園、国分保育所でした。それが急遽、今の計画で認定こども園にされる。それは耐震の関係も理解できます。

国分地区に関しては、線路を境に保護者の行動の範囲が違ってきます。ハーモニーを利用する人はほとんど線路側よりも旭ヶ丘小学校より来る子どもの数のほうが多かったです。なので、できたら国分の東のほうにもデビューする前の親子で集える環境を考えていただけたらと思います。

認定こども園ができて、そこに集まれるところがあればいいのですが、スペース的に厳しそうなので、不安になっているお母さんとお子さんが安心して社会に出られるような場を作っていただきたい。

**【事務局】**

国分地区で、ハローKIDSが機能移転していくうえで、例えば国分図書館の4階の広場をスポット的に使う計画も考えています。他にも使える施設は、保護者の方がお子さんと一緒に行きやすい場所をこれから探して計画していきたいと思っています。

**【谷向会長】**

「デビュー」という言葉が出た。拠点の子育て広場などで子連れのデビューをするということは世代交流

の場でもあるということですね。市民にとって大切な場所を大事にしていくことを考えてほしい。

【谷向会長】

では、次の案件に。

【事務局】

案件 2

(2) 柏原市子ども未来プラン（第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画）（案）へのパブリックコメント実施結果

資料3のとおりお1人からご意見をいただいています。案件意見内容は、個人が特定されないよう要約して示しています。

意見内容1、こちらに対する市の考えについてご説明します。

「年子育児がとても辛く孤独だった」というご部分に関しては、低年齢児枠（保育所）の拡充を計画していることを示しています。

「虐待」に対するご意見については、子育て世代包括支援センターや子ども家庭総合支援拠点などを開設して、これまで以上に家庭の状況の把握に努めるということを示しています。

「つらい思いをしているお母さんを助けてほしい」という内容に対しては、乳児家庭全戸訪問やママプラスを産後不安の軽減のために市として実施していることを示しています。

意見内容2について、年度途中での保育所の転園を柔軟にしてほしいというご要望がありました。転園を希望する具体的な理由を上げておられましたが、保育利用の可否を市は決定する、利用調整をするということで、合理性や公平性が求められるという観点から、年度途中での転園を原則としては受けていないという理由を示しています。どちらも計画に直接影響する内容ではありませんでしたので、これらのご意見によって、計画の修正等を行わない予定です。

案件2については以上です。

【谷向会長】

ご質問はありますか。

【小松副会長】

転園の要望はよくあるのでしょうか。

【事務局】

それほどはないです。どちらかというとな消極的な理由での転園希望が多いです。市内転居で住所が変わり、通園する保育園が遠くなり、かつ、空きがある場合は、年度途中で転園希望を受けています。

【小松副会長】

自己都合で、例えば「あそこに行かせろ」というのは。

【事務局】

消極的な理由で言うと、「ちょっと行ってみたいけどやっぱり合わないから違うところへ行きたい」とかはあります。年度代わりで例えば2才から3才に上がるタイミングでの転園希望は受けています。

【谷向会長】

では、次の案件に。

【事務局】

それでは案件3。柏原市子ども未来プラン（第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画）（案）の成案について。

出来上がりの冊子がイメージできるようにA5サイズになりますが小冊子形式でご用意しました。計画書として実際の冊子になる際には、第1期子ども未来プランと同様に表紙にイラストが入ります。また、冒頭に市長の挨拶が入り、後ろのほうに資料編ということで、子ども子育て会議の状況等が掲載されます。

それでは、パブリックコメントを実施後に変更した箇所を資料4でお示ししています。

第1期計画では、38ページ3行目。7つの基本目標に対応した施策を具体的に展開する113の取組としました。この文章の中では基本目標に直接113という取組が結びつくような内容になっているので、「113がいきなりで具体的すぎる」というご意見をいただきました。基本目標があり、施策があり、113の取組があるので「113」を削除します。

4行目。第1期子ども未来プランの内容であることを強調するために「第1期計画の」という部分を赤字で追加しています。

38ページから42ページ。第2期子ども未来プランの基本目標のところでは、「(1) 幼児期の教育・保育環境の充実」になっていましたが、第1期の成果のところでは「基本目標1 幼児期の教育・保育環境の充実」となっていたので、「第2期子ども未来プランの基本目標のように錯覚してしまうのではないか」という意見もあったので、第4章以降の第2期子ども未来プランと同じ表記に変更しました。

92ページ。(仮称)こくぶ認定子ども園も認定子ども園化のために令和2年度にハローKIDSを休止とするので、確保の数が変わってきます。第2期子ども未来プランの教育・保育、地域子育て支援事業のうちの(9)地域子育て支援拠点事業のところの確保の数を、令和2年度当初から減らして調整をしています。減らした結果も、特に不足はないという内容になっています。

(仮称)たまた認定子ども園や(仮称)こくぶ認定子ども園の開設によって、第7章の教育保育の1号・2号・3号の確保の数も変わってくるのですが、こちらはまだ利用定員が設定できていないので、次年度の状況をみて判断した上で設定したいと思っています。現在のところ、計画の数値上不足はないとなっていますので、教育・保育の数、1号・2号・3号の数が変わってしまうことについてはタイミングをみて見直しができればと考えています。

計画の今後について。

計画案については、現在大阪府と協議をしています。大阪府の子ども総合計画との整合が必要なので、その影響で修正が入る可能性もあります。会議後に計画本編から主な内容を抜き出して、計画書の概要版を作成します。計画書本編、概要版ともに現在作成中で、印刷、製本のうえ3月末に計画の公表、配布を予定しています。

案件3については以上です。

#### 【谷向会長】

何かご質問、ご意見はありますか。

#### 【小松副会長】

資料4の38ページに公立子ども園のことが書かれているのですが、ここに(仮称)こくぶ認定子ども園は入らないのですか。92ページに、国分のハローKIDSが閉所することが書かれているので、38ページにも反映されるのが本来のあり方ですね。

#### 【事務局】

この部分の反映は間に合っていませんでした。最終的には反映する予定です。

#### 【谷向会長】

57ページに「臨床心理士」と職名が表記されていますが、「公認心理師」が新設されたので、加えておいてください。「公認心理師」は国家資格なので、今後統合されていくと考えられます。今は混在していますが、それも踏まえて心理職の名称を入れ替えておいてください。あと、母子保健の方でも全体的に統一されていないので。

#### 【事務局】

「心理職」という言い方よりも両方載せておいたほうがいいのでしょうか。

#### 【谷向会長】

もしくは「心理職」でも結構です。

#### 【小松副会長】

57ページは「実施しています」なので、現状としてはこの表現でよいと思うが、臨床心理士の先生方はこれから公認心理師の資格をとっていかれるので、この段階では「心理職」でいいかもしれないです。逆に「公認心理師」にしてしまうと、今、公認心理師はとっていないけれどもいろいろなところに勤めている方が、



「私は違う」ということになってしまう。ちょうど切り替わりの時期なので、両方の資格が併存することを前提の書き方にした方がよいと思います。

**【谷向会長】**

過渡期です。これまでの状況は臨床心理士でよいのですが、今後のことを考えると。

**【小松副会長】**

公認心理師は、「師」が医師と同じ「師」です。「臨床心理士」は持っていないけど「公認心理師」は持っているという若い人たちがいずれ出てくると思います。

**【谷向会長】**

保険点数や医療に関しては、「公認心理師」が資格要件となります。

**【西委員】**

文言に「保・幼・小」とか、「幼・小・中」などの文字がたくさん入っています。そのうちの「幼」がなくなってくるということですね。この5年計画の後には、どうなっているのかなと思います。

**【事務局】**

「幼」が幼稚園の「幼」じゃなくて幼児教育の「幼」だという意味もあります。保育、幼児教育、小学校教育という捉え方もあります。もともとは保育所、幼稚園と言う意味で使われていたと思います。

**【西委員】**

委員会でも、幼・小・中といえば幼稚園、小学校、中学校というくくりで見えていましたね。

**【事務局】**

今、どういう意味でそれを使うという、細かい言葉が指すイメージを、教育委員会とも共通理解の元で、それぞれが何を具体的に想像してそれを言っているのかは、すり合わせが必要だと思っています。

**【西委員】**

公立保育所や民間の保育園の交流は、どのようにされているのですか。

**【藤井委員】**

年長児は「わくわくスタート」で、各小学校に上がる時に学校見学での交流がありますが、それ以外の年齢ではほとんど交流がありません。

**【西委員】**

普段から小学校との関わりはないですね。今まで、公立の幼稚園は小学校との交流があるのを見ていたので、公立幼稚園に行かせる方はそういったことを望まれていたのかと。でも、入ってしまえば子どもたちは小学校に行くことに対して不安感を持つことはないですよ。

**【藤井委員】**

子どもは全然ないですね。保育園は校区がないので園児が通うことになる小学校は様々ですし、「わくわくスタート」で全小学校には連れていけない。

**【西委員】**

地元の小学校に行って小学校の様子を知るのは「わくわくスタート」の機会だけですか。

**【藤井委員】**

年長の夏ぐらいですね。各園の先生方が集まって、これからも継続するかどうかを話し合っています。

**【西委員】**

北小学校の健全育成行事では、小さい子どもの参加が少なくなってきました。周知や呼びかけはどうなっているのですか。

**【藤井委員】**

運動会と生活発表会は小学校の講堂を借りて実施しています。実際きょうだいも少ない。卒園児やきょうだいがいたら「こんな授業を教室でやっている」とポスターを貼ったりはしています。時間もないし、行く小学校もばらばらなので、対応は難しいですね。

気になったのですが、資料1の表で、「堅下地区」で最終的に「開園」となっているのは「閉園」ではないでしょうか。

**【事務局】**

公立幼稚園と公立保育所を再編していくという基本計画の中で、堅下地区については、当時の堅下北幼稚園、堅下幼稚園、堅下保育所は、認定こども園として統合するという方向性を示しているのですが、この実施計画でもそのスタンスは変わりません。令和4年度以降に認定こども園として「開園」する方向ですが、時期は未定という意味合いになります。

**【藤宇委員】**

認定こども園の開園に向けて、閉園された幼稚園の場所は通いやすいので土地をそのままにしておくのはもったいないと思います。国分幼稚園はお母さん達に人気のある場所なので、建物を取り壊しても有効活用できるよう並行して同じように計画できないでしょうか。

**【事務局】**

国分幼稚園の跡地利用については、例えば（仮称）こくぶ認定こども園の第2園庭という利用方法もあると思います。幼稚園は教育委員会の管轄ですが、幼稚園でなくなると市の公有財産となるので市全体として有効活用を考えることになります。

**【西委員】**

堅下北幼稚園も市の教育委員会とはもう関係ないのですか。

**【事務局】**

今は関係ないです。

**【西委員】**

それなら市の周りの人がいろいろな意見を言うこともできるということですね。

**【事務局】**

市としてあの場所をどうしていくかは今、公有財産担当課で考えているところです。

**【藤宇委員】**

園庭も使わなければますます荒れるので、園庭の使い方も並行して計画的に考えていただきたい。少ない費用で継続してお母さんや子どもに使ってもらえたらうれしいです。

**【谷向会長】**

国分保育所もそのうちに。

**【事務局】**

代替え地があるので。今の園舎を壊して今の場所に建てるとなると、その間子どもが行く場所がなくなるので、土地があればそこに建てる可能性はありますが、市が直接やるのか民営化に伴い民間にさせていただくことも検討する必要があると思います。

**【藤井委員】**

一般的には建替えとなれば違う場所に園舎を建てる。建てている間は今の園舎で保育をするという方法が一番経済的です。運動場の面積も一人あたり何平米と決まっています、その土地があればいいのですが、近くの公園を「第2園庭」として国の基準を満たすこともあります。子どもたちを中心に考えると方法はいろいろ出てくると思います。

**【谷向会長】**

もっといろいろ知恵を出し合っただけということですね。

**【小松副会長】**

民営化は現状の計画にはないということですが、今後考えるとすれば、「改めて審議をして」ということですね。いきなり「来年から民間になります」というような想定では進めていないですね。

**【事務局】**

そんなに急激に変わることはありません。ただ、民営化のガイドラインについては法善寺幼稚園を民営化する時に計画を作っています。「2園程度」という書き方になっていてその1園は法善寺保育所（現：法善寺保育園）です。今のニーズが落ち着いた時の状況も考えながら進めていきたいと考えています。

**【小松副会長】**

2園目も検討されるということですか。

**【事務局】**

当初の計画ではそうなのですが、具体的にどこかはまだ何も決まっています。ニーズが減って来ているため、5年前に作った時と今の子ども数やニーズの状況は変わってきているので、そこにどこか1つの園を持ってくるとなると他の民間園にも影響が出るので、慎重に検討していきたいと思っています。

**【小松副会長】**

以前、幼稚園の先生から「新しい施設になるとテンションが上がる」と聞きました。夢が持てるようなことを進めていただくと現場の先生のやる気も増すと思います。

**【谷向会長】**

幼稚園の先生と保育所の先生で「統合」についての研究会をしていて、そこに今年度からは民間も加わって全体として保育の質の向上を図っているとのこと。今は、心理職などを市に導入するなど多職種連携というところからどこの市町村・都道府県でも質の向上を考えています。柏原市では何か検討していますか。

**【事務局】**

多職種連携では、来年度、児童虐待を扱っている家庭児童相談室に心理職を入れる計画があります。常勤の心理職が児童虐待に関わる、家庭相談の総合的な窓口にいるということになるので、心理的なケアやフォローができます。また、今まで以上に健康福祉課の保健師とのコラボや学校現場との連携を強化していきたいと思っています。現状は、家庭児童相談は保育士が対応し、ソーシャルワーク的な動きもしているのですが、保育士のみでは限界があるので、来年度から徐々に連携を広げていきたいと思っています。

**【谷向会長】**

他に何かありませんか。

**【事務局】**

資料4で、先ほど小松副会長からご指摘のあったこくぶ認定こども園を入れることや谷向会長からご指摘のあった心理職のことなど、計画の修正についてご意見があれば2月中にご連絡ください。

**【谷向会長】**

では、次の案件に。

**【事務局】**

それでは案件4。その他。

昨年度からニーズ調査の実施や今回の計画策定で6回の会議を開催させていただき、ありがとうございました。次回の会議の案件としては、（仮称）かしわら認定こども園、（仮称）たまた認定こども園、（仮称）こくぶ認定こども園の利用定員の設定にご意見をいただくことと、今回策定する柏原市こども未来プラン（第2期柏原市子ども・子育て支援事業計画）の進捗のご報告をさせていただきたいと考えています。次期

としては、おそらく約1年後になると思います。他にご意見をいただきたい案件が突発的に出た場合は、その都度会議を開催させていただきます。よろしくお願いします。

案件4は以上です。

**【小松副会長】**

定員を来年の今、決めていて大丈夫でしょうか。

**【事務局】**

定員の設定についてご意見をいただくという形です。

**【小松副会長】**

ここで「おかしい」とか言ってももう変えられないですよ。実質的に意見を求めるのか、今この段階で来年ということだと形式的なものになる気もしますが。

**【事務局】**

認可定員の範囲内で利用定員の変更は可能なので特に問題はないです。

**【藤宇委員】**

私はPTA協議会、幼・小・中交流部会会長をしています。先日認定こども園に変わる柏原のお母さんとお話をする機会がありました。認定こども園になるにあたって「今はきちんと説明していただいているから楽しみでしかない」とおっしゃっていたのですが、お母さん曰く、「子どものためと言いながらほぼお母さんのためだ」と。「こども未来プラン」と言いながら、親子がセットになっているという気持ちがすごく強い。お母さんがその幼稚園に馴染めるか、先生と相性がよいかとすごく不安がっているお母さんが多い。国分でも新しく理解を深めるのにすごく時間がかかると思いますけれども、保護者の方へのケアをよろしくお願いします。

**【西委員】**

もちろん国分だけでなく堅下も同じなので、耐震があつてそういう噂が流れてきたら堅下は大丈夫なのかと。古いことは皆さんもご存じなので、まだこちらには届いていないかもしれませんが、いろいろなご意見が来ると思います。まして少なくなっている中でそういうことを聞くと、もっと不安が大きくなってくるかと思えます。皆さんご理解していただけたらと思いますので、保護者の方には手厚く対応していただくようくれぐれもよろしくお願いします。

**【谷向会長】**

母親の不安は子どもの発達に望ましくないもので、その点はよろしくお願いします。皆さんのほうからもまたいろいろご意見や資料を提出してください。よろしくお願いいたします。

**【小松副会長】**

今、とても大事なことを言っていたと思います。地域の方々、先生方の声を聞いていただいて、いろいろ変わっていくと思います。引き続きよろしくお願いします。